

Economic Indicators

定例経済指標レポート

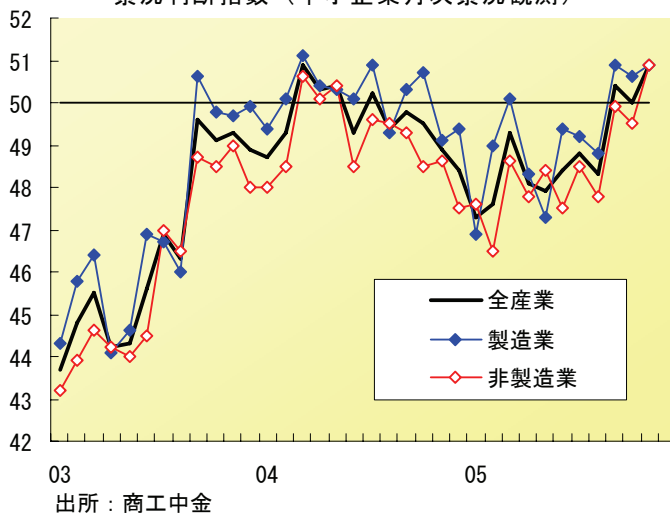
指標名：中小企業の業況(11月調査)
～ 改善する中小企業の景況感 ～

発表日：2005年11月30日(水)

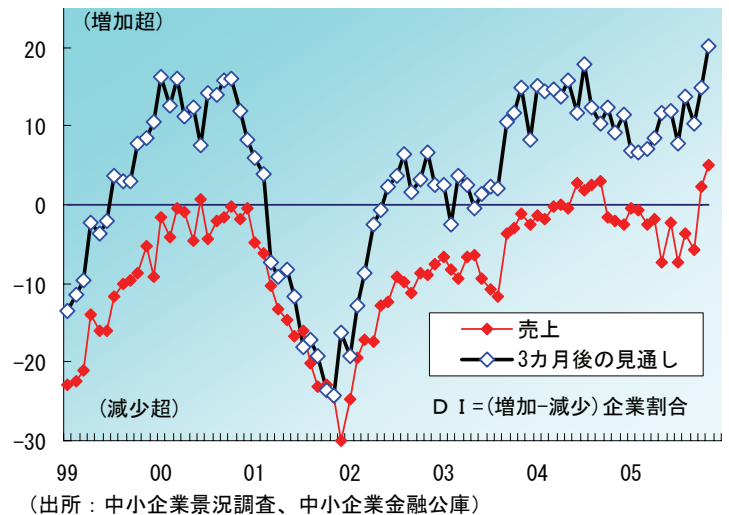
(No. J - 174)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 新家 義貴(03-5221-4528)

景況判断指数(中小企業月次景況観測)



中小企業 売上DI(季調値)



○ 中小企業の景況感も持ち直し

11月29日に商工中金から公表された「中小企業月次景況観測」では、11月の景況判断指数(1000社調査)は50.9(10月50.0)と前月から+0.9ポイント改善し、「好転」と「悪化」の分岐点である50を上回った。内訳では製造業が前月差+0.3ポイントの50.9、非製造業が同+1.4ポイントの50.9となっている。非製造業が50を上回ったのは18ヶ月ぶりになる。また、売上高に関しても+3.0%と前月に続いて高い水準にある。なお、雇用状況と生産設備に関する判断は「不足」状況が続いていることに変化はない。

また、中小企業金融公庫から本日公表された「中小企業景況調査」では11月の売上DIは5.1(10月2.3)と2ヶ月連続で改善し、水準も2ヶ月連続のプラスとなっている。また、今後3ヶ月の売上見通しDIも2ヶ月連続で大幅に改善しており、先行きについても比較的強気な見通しを持っていることが確認された。11月の内訳をみると、ここ数ヶ月間の傾向として、設備投資関連、乗用車関連、家電関連の改善が目立っており全体を牽引している状況は変わっていない。なお、今月に関しては、9、10月と低迷していた衣生活関連が改善したことが目をひいた。振れがかなり大きいため即断は禁物であり、今後その他の統計でも確認していく必要はあるが、気温が高めに推移していたこともあって10月までやや足踏み状態にあった個人消費が11月にはある程度持ち直した可能性があるということも、気に留めておいても良いだろう。

このように、年初から一進一退の推移を続けてきた中小企業の業況も足元で改善している。設備投資を中心とした内需が引き続き底堅く推移していることや、輸出が徐々に持ち直してきていることから売り上げが回復してきていることに加え、株価の上昇が企業マインドを明るくさせたことなどが業況感の改善に繋がったと考えられる。中小企業は大企業と比べると改善が遅れており、水準も低いことは確かだが、中小企業の景況感が改善方向に向かっていることは確かだ。今月の結果をみる限りでは、12月14日公表の日銀短観も中小企業の業況判断はますますの結果となる可能性が高いだろう。